

福岡市野鳥公園計画を巡る ソーシャルマップ作成と組織間連携に関する考察

福岡大学工学部社会デザイン工学科
福岡大学大学院工学研究科
福岡大学工学部社会デザイン工学科

学生会員 ○石橋 悠
学生会員 高田彩乃
正会員 柴田 久、石橋知也

1. はじめに

今日、社会基盤整備事業においては環境配慮の求められる一方で、関係する多くの人々の協力を不可欠とする持続可能な社会の実現が重要視されている。これに対し、アメリカの SAVE International（以下 SAVE）は強固な連携体制を形成しつつ、台湾台南県チクやアメリカ合衆国ニューメキシコ州ソコロなどにおいて、湿地保護の先進的な活動および成果を挙げている¹⁾。2010 年より、福岡大学（工学部景観まちづくり研究室）と上記 SAVE は福岡市アイランドシティの野鳥公園整備計画を巡る協働プロジェクトを進めており、研究活動ならびにワークショップ（以下 WS）の開催などを継続して行っている。

本研究では 2011 年に実施した WS の成果を踏まえながら、SAVE が提案する「ソーシャルマップ手法」を用いて上記野鳥公園を巡る組織間連携について考察することを目的とする。

2. 福岡市アイランドシティ野鳥公園の概要

福岡市アイランドシティは福岡県福岡市東区の博多湾内の埋立によって建設された人工の島である。アイランドシティ内の市 5 工区には自然環境への取り組みとして、博多湾の鳥類を中心とする生態系に着目した「野鳥公園基本構想計画」が策定されている²⁾。しかし、現状として、アイランドシティや周辺地域の環境調査³⁾などが進むなか、事業整備計画は具体的に進んでいない。

3. 福岡市野鳥公園を対象とした WS の実施

本研究室と SAVE は協働で、福岡市野鳥公園を対象に、今後の持続可能な環境共生のまちづくりについて議論することを目的とした WS を開催した。WS では本研究室と SAVE による、国際的に貴重であるクロツラヘラサギを保護鳥種の中心（ターゲット）とした野鳥公園のデザイン提案を行っている。ここでは参加者

に対して提案された複数のデザイン案に対して、SAVE による環境評価基準をもとに「よい点」、「気になる点」、「その他」の 3 項目で意見を述べてもらった。それらの意見を踏まえて議論を進め、参加者が求める野鳥公園のあり方について把握した。

WS で得られた全ての班の意見を KJ 法によって分類し、まとめた結果を図-1 に示す。参加者の意見より野鳥公園の広さ、野鳥公園の緑、土地利用、施設、設備、環境、自然再生、干潟、自然と病院、人、鳥、計画や実効性、繋がり、管理、景観、その他の 16 の分類が抽出された。全体的な意見として、「野鳥公園に広大な緑を集約する」、「より現実的なプランであること」といった、環境を重視しつつ、現実性のある計画が求められていることが把握された。さらに「緑道を残しつつ公園を大きくできないか」、「おもしろい、みてみたい」などといった要望も多く見受けられ、市民の野鳥公園に対する期待や意識の高さが窺えた。また「計画に必要な公園の大きさはどの程度か」、「海流や風の影響を考慮し、より議論を進めるべき」といったアイランドシティの環境に対する意見が多く抽出された。これらについては既に調査結果がまとめられており、それらの情報が市民に広く発信されていないこ

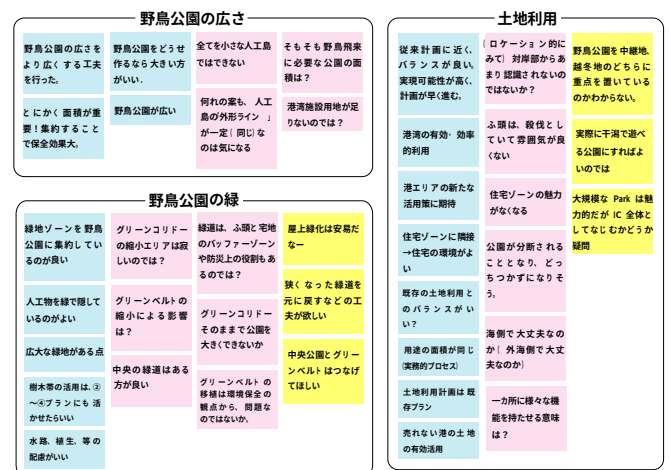


図-1 KJ 法分類結果（代表的な意見）

- 1) Randy Hester, Amy Dryden, Sarah Minick, Marcia McNally :
Geometries, pp. 51-56, 57-62, 2006
- 2) 福岡市港湾局：福岡市野島公園基本構想，2006
- 3) 国土交通省九州地方整備局，福岡市港湾局，博多湾開発株式会社：アイランドシティ整備事業 環境監視計画，結果，概要，平成19～24年度